

第57回試験研究成果発表会（花植木Ⅰ）発表概要

【日時】令和2年2月5日（水）13:00～15:20

【会場】農林総合研究センター 農本館 A会議室（千葉市緑区大膳野町808）

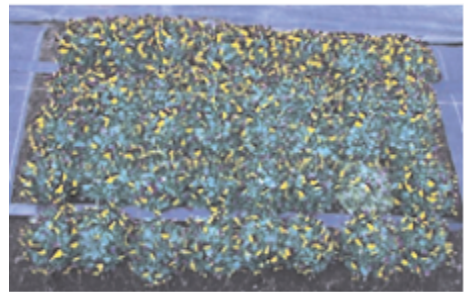
発表1 成果発表（13:10～13:35）

早春花壇向け！パンジー・ビオラ優良品種の紹介

ー第65回全日本花卉品種審査会（パンジー・ビオラ早春花壇）結果報告ー

花植木研究室 室田 有里

パンジー・ビオラは秋から春の花壇の主役であり、秋出荷の苗物としてメインの品目です。今回は、全日本花卉品種審査会（パンジー・ビオラ早春花壇）として秋に植えて春まで花壇をきれいに維持できる品種を選定しましたので紹介します。



1等特入賞品種「ソルベ XP イエロー
バーガンディジャンプアップ」

発表2 成果発表（13:35～14:00）

簡易ミスト装置を使ったシクラメンの高温対策

花植木研究室 室田 有里

シクラメン栽培では、夏期の高温対策技術が不可欠になりつつありますが、細霧冷房装置やヒートポンプは導入コストが高いために普及していません。そこで、低コストの簡易ミスト装置を試したところ、ハウス内気温を日中平均1.5℃、最大3℃下げることができました。簡易ミスト装置の取り付け例と、シクラメンの生長に与える影響を紹介します。



簡易ミスト装置で慣行栽培（左）
より葉色良くコンパクトな草姿と
なったシクラメン（右）

発表3 成果発表（14:00～14:25）

輸出用鉢植木の軽量で体積減少程度の少ない培養土について

花植木研究室 下江 憲

輸出用植木の培養土にはピートモスが主に利用されていますが、ピートモスを用いた培養土は、時間の経過とともに体積減少や形状の変化等が見られ、従来の特性を失ってしまうことが問題となっています。そこで、ピートモス並みに植木の生育が可能でピートモスに比べて物理的に安定した安価な培養土を開発したので紹介します。



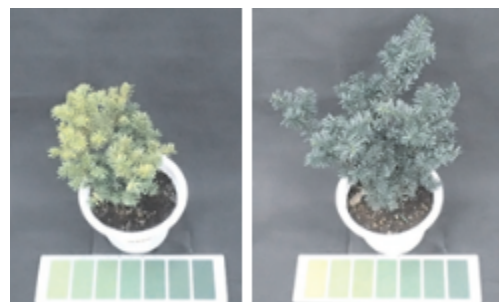
腐蝕による体積の減少が少ない低コスト
軽量培養土

発表4 成果発表（14:25～14:50）

輸出用植木類の殺線虫剤処理による樹勢の衰退を回避する方法について

花植木研究室 下江 憲

輸出用植木類の線虫対策として根部薬剤浸漬及び根洗い後にピートモスで鉢上げする対策技術が導入されていますが、輸出した植木類の樹勢の衰退が問題となっています。輸出用イヌツゲ、キャラボクの根洗い薬剤浸漬後の樹勢の衰退を回避する有効な方法を紹介します。



薬剤浸漬後、遮光と施肥を組み合わせた養生管理（右）は無遮光、無施肥（左）に比べて葉色良く樹勢が旺盛になる。

発表5 成果発表 (14:50~15:15)

輸出用植木類の根洗い鉢上げ後の線虫の再汚染を回避する方法について

花植木研究室 下江 憲

輸出用植木類の線虫対策として根部薬剤浸漬及び根洗い後にピートモスで鉢上げする対策技術が導入されていますが、輸出した植木類から線虫の検出が問題となっています。輸出用イヌツゲ、キャラボクの根洗い鉢上げ後の線虫の再汚染を回避する有効な方法を紹介します。



地上 50cm 隔離管理によるオオハリセンチュウの再汚染の回避